

## 開講式：第4期生19名が入学

2010年10月1日、工学部14号館にて開講式が行われ、第4期生19名(1名の留学生を含む)が新たにまちづくり大学院に入学しました。

開講式は、都市工学専攻長でまちづくり大学院コース長でもある大西隆教授の挨拶の後、建築学専攻長の西出和彦教授より祝辞が述べられ、社会基盤学専攻長の石原孟教授から寄せられた祝辞が紹介されました。その後、列席した教職員の紹介とオリエンテーションが行われました。

大西隆コース長の挨拶及び西出和彦専攻長の祝辞(要旨)をご紹介します。



■開講式(2010年度)

入学おめでとうございます。

東大まちづくり大学院は、我々の都市工学と建築、社会基盤の3つの専攻が連携・協力してまちづくりに関する多様な研究を行っており、その活動領域はGCOEを中心に海外にまで及んでいます。皆さんも、タイミングや時間が許せば、その活動に参加できる可能性がありますので大いに励んでください。カリキュラムは、皆さんが一定の知識を身につけ、あるいは能力向上に必要な内容を備えています。これが、毎週火曜日から金曜日までの講義と土曜日の演習ですが、それ以外にも様々な活動があり、これらに積極的に参加することにより、より充実した学生生活が送れると思います。履修期間は、最長4年の長期履修制度があり、皆様の志やご決断により、より有意義なものになると存じます。



■大西隆コース長

まちづくり大学院の開設当初は、修士課程完結型、つまり、修了と同時に職場に戻ることを想定していましたが、昨年修了の1期生は、5人が博士過程に進学し、9月に修了した2期生も4人が博士過程に進むなど予想以上の展開をしています。まさに、まちづくり大学院を、一つの人生の転機にしたいとの思いで来られる方もいることを知りました。東京大学は全学で多様な研究活動をしています。どうぞ、東京大学大学院生としての特権・権利を十分に活用して大いに新しいチャレンジをしてください。皆様のご活躍を期待いたします。

おめでとうございます。建築学専攻の教員を代表してご祝辞を申し上げます。

私は、大学を含め学校とは、教える場所ではなく、学ぶ場所だと考えています。このニュアンスの違いはお解りと存じますが、何か正解があることを教えるのではなく、正解のない何か解らない問題に立ち向かうために何をすればよいかを学生自身が学ぶ、そういう場所だと思います。



■西出和彦建築学専攻長

特にまちづくりにしても、建築、社会基盤にしても、非常に難しい問題があり、物だけではなく、人のことも含めて考えなければならず、かつ多様な知識が必要であり、正解のない領域だと思います。

つまり、大学とは、学ぶためのリソースを備えている場所と言える訳です。

リソースとは教員もいるし、人もいる。それから資料もあるし、学ぶ環境も大切です。

東京大学には、こうした素晴らしいリソースがあることを理解していただきたいと思います。

これほどの条件が整い、幅の広さがあり、3専攻合わせれば凄い人がそろっています。偉い人だけではなく、様々なタイプの人があります。

入学された皆様には、ぜひ、東京大学の持つ資源を最大限有効に活用して、有意義な学生生活を送っていただき、良い成果を出していただくことを大いに期待いたします。ありがとうございました。

# 東大まちづくり大学院・修了式

2010年9月27日(月)、学位授与式(修了式)を開催

2010年9月27日(月)、工学部14号館にて、東京大学工学系研究科の学位授与式(修了式)がとりおこなわれ、まちづくり大学院1期生の1名、同2期生の9名が修了しました。

2010年3月に修了した3名を含めた計13名の修士論文の題目は、以下のとおりです。また、修士論文に挑んだお二人に感想をお聞きました。

## まちづくり大学院生の修士論文

【2010年3月修了】

- ・ハバナ旧市街・密集市街地における二層の街路空間システムの再開発とその評価
- ・アメリカ メインストリート・プログラムにおける州コーディネート・プログラムの運営組織と支援体制の研究—TIER SYSTEMの分析を通して—
- ・都市内河川流域における都市形成及び緑地構造の歴史的変遷をふまえた都市再生計画論に関する研究—東京都目黒川流域を研究対象として—

【2010年9月修了】

- ・新宿副都心計画の経緯と評価に関する研究—総合的計画の再計画に向けて—
- ・郊外住宅地での住民主導の地区計画策定プロセスにおける自治会と街づくり組織の相互関係—大和市、町田市、横浜市の戸建住宅地を対象に—
- ・既成市街地における分散的継続的住宅地更新と空間改変ダイナミズムの研究
- ・都市的手法によるCO<sub>2</sub>削減の可能性・問題点とその円滑な実施のための政策提案
- ・交通条件からみた東京23区下小規模商店街の類型化に関する研究
- ・住宅地におけるCO<sub>2</sub>排出削減技術の適用可能性と次世代住宅地像の研究
- ・欧州諸都市の歴史的発展過程を考慮した広場・街路空間のネットワーク分析
- ・創造産業と創造階級による都市再生の可能性に関する基礎的研究  
～政令指定13都市と東京特別区の比較分析の試み～
- ・市街化調整区域内の開発の実態と課題—伊勢原市南部地域におけるケーススタディー—
- ・首都圏大規模ニュータウンの持続可能性に関する研究～自立性及びソーシャルミックスを中心に～

## 修士論文に挑んで

松本博之さん  
(2010年3月修了)



修士論文のテーマはアメリカで約30年前から取り組まれている「メインストリート・プログラム」という中心市街地活性化戦略の運営システムです。

論文執筆は、主に勤務先向いの喫茶店で行いました。提出までの約半年間は、毎日、仕事前の1時間～1時間半、帰りが早い時は、業務後にもコーヒーを飲みながら書きました。我ながらよく続いたなと思います。

大変だったのは、資料の大半が英語だったこと(当たり前ですが)とヒアリング調査のため2回アメリカに行ったことです。eメールによるアポ取りとインタビュー、あんな下手な英語で……思い出すと今でも冷や汗がでます。

三浦由理さん  
(2010年9月修了)



人生二度目の修論執筆。20代の、社会が実際のところどういう仕組みで動いているか、曖昧だった頃の研究とは全く世界が違っていました。四半世紀の社会経験によって現実の都市の抱える課題や可能性が、具体的な形で見えるようになり、それゆえに論文としてまとめるには混沌を極めました。都市の維持装置である産業の変化が都市にもたらす影響について極めたいと願いながら最後は時間との戦いでした。締め切りに追われることには慣れているもののクライアントのいない論文執筆はあくまでも自分との戦いであり、果てしない闇の中を彷徨っているようにも思えました。しかし、これから直面すると思われる様々な課題解決に向かう途上、大事な時間だったと確信しています。



■学位授与式終了後の懇親会(2010年9月27日 学生会館にて)

## Topics

### 桜川市とまちづくりシンポジウムを共催

東大まちづくり大学院では、全国の地方公共団体とも連携して研究や交流を深めています、このたび、その一環として茨城県桜川市と共催して「地方都市における分権型まちづくりを考える」と題したシンポジウムを開催しました。

桜川市は、昨年度、東大まちづくり大学院と「桜川市における都市のあり方」について共同研究を実施し、人口減少時代のまちづくりに貢献する都市計画マスタープランの有様を探ってきました。当日は、市民や茨城県、千葉県、埼玉県の市町村職員など約190名が参加。冒頭、中田市長の挨拶の後、大西隆教授が基調講話を行い、人口集中地区を持たない桜川市は、これからの日本の地方都市の姿をいち早く体現しており、こうした都市で新しいまちづくりの挑戦が始まることは大変意義深いなどの講話を行いました。

その後、昨年共同研究の成果のあらましが報告され、これらを踏まえたパネルディスカッションが、大西教授の他、大村謙二郎教授(筑波大学大学院)、谷口守教授(筑波大学大学院)、久保田時治氏(株)常陽産業研究所フェロー)中西賢也氏(国土交通省)、浅賀宗和氏(桜川市都市計画審議会会長)、林悦子氏(桜川市議会議員)によって行われました。

- 日時 平成22年11月1日(月) 13:15~17:00
- 場所 桜川市大和ふれあいセンターシトラス
- 基調講話 大西 隆 氏(東京大学大学院教授)  
「地域が決める・市民が輝く—地方都市の新しいまちづくりへの展望—」
- 研究報告  
「桜川市における都市計画の展望・桜川市都市のあり方研究報告」
- パネルディスカッション  
「地域・環境・コミュニティを包括する新しいまちづくりを考える」



■パネルディスカッションの様子

### 「東大まちづくり大学院シリーズ」ご紹介

まちづくり大学院の熱い講義の内容を広く伝えたい。そんな想いを込めて、まちづくりの先端テーマに的を絞った図書を刊行しています。この3月に発刊する「人口減少時代の都市計画—制度と戦略—」を含む3冊をご紹介します。いずれも学芸出版社からの発刊です。

#### 低炭素都市 これからのまちづくり

大西 隆・小林光 編著  
A5判・256頁・税込2,835円

低炭素都市の実現には、まちづくりの様々な政策が大きな転換を遂げて、まちの構成や基盤から人々の生活や移動の仕方に至るまで、低炭素型社会の思想と実践が貫かれる必要がある。では、その変換とは? 地球環境問題と都市行政の専門家と研究者が、建築、交通、暮らし、都市計画、都市政策について、事例を交えて明らかにする。



#### 広域計画と 地域の持続可能性

大西 隆 編著  
A5判・256頁・税込2,940円

地域主権が具体化し基礎自治体を中心とした自治が進むと、国や府県の関与が減る分、環境や農地の保全、産業振興など、広域で取り組むべき問題をどうするか、重要になる。多数の自治体や民間・市民など多様な主体を結び、活動を生み出すための指針として広域計画が是非必要だ。内外の事例から立案手法まで幅広く紹介する。



#### 人口減少時代の都市計画 —まちづくりの制度と戦略—

大西 隆 編著  
A5判・272頁・税込3045円

成長時代の都市計画はまちづくりの阻害要因にすらなっている。逆都市化、超高齢社会、低炭素、地方分権、都市間の連携と競争……突きつけられた課題にいかに対応するか!? 歴史をふりかえり、今すでに始まっている変化、工夫を捉えなおし、市民・民間主導のまちづくりを自治体ができる都市計画のあり方を構想する待望の一冊。



## まちづくり大学院に入学して——1

2010年度(第4期)入学のみなさんに、志望した動機や今後の抱負など、思い思いに語っていただきました。



■2010年度 第4期生のみなさん

### ■新井里枝——三鷹市役所

【どうき】幼い頃から暮らしている「まち」で働くことになる、月日を経るごとに、やっつけ仕事で大学(建築学科)を卒業してしまった事実が、大きな後悔となって私を苦しめるようになっていた。

【いきぎれ】高速高質高級授業にて聞きなれぬ言葉を浴び、過呼吸気味にレポート作成。ひとえに、Yahoo! や Google に頼りっぱなしの日々です。

【めまい】知的好奇心を掘り下げられているせいか、私の心が確実に豊かになっているのを感じます。もしかして、持続可能なワタクシに再生してるんじゃないかしら…とクラクラしております。

【ふるえ】大好きなフットサルの誘いを断り、平日夜間、向かう先はHONGO~! 「分からないから来てるんだ」と「石の上にも三年(できれば2年で…PLEASE)」を、東京メトロ南北線車中における呪術呪文として自らを奮い起こし、皆様のお知恵を拝借させて頂きながら、明るくのびのび勉強していく所存です。

### ■江島知義——(株)三菱地所設計

私は、設計事務所で意匠設計を担当しております。特に、歴史的建造物の保存・活用やまち・建築を構成する要素、要因に興味をもって、日々設計活動をしております。

今までの知識・経験を学術的に整理すると共に、今後の成熟社会に相応しい都市や建築を創る理論を学び実践へ活かしていきたいと考えました。社会は物質的な豊かさから心の豊かさを求める時代へと変貌し、都市や建築を創る上で、広範囲で総合的な知識や理論を備えておく必要を感じておりました。まちづくり大学院の魅力は、都市工学専攻・社会基盤学専攻・建築学専攻の3専攻を総合的に学ぶカリキュラムと第一線の教授、講師陣による講義にあります。実際の講義においても理論から最新の状況まで密度の濃い講義をして頂いております。

まちづくりの理論は、これからの豊かな都市創造のヒントを与えてくれると思います。

### ■井上恵太——東京急行電鉄(株)

まちづくり大学院は、社会人向けの大学院ということで、仕事を続けながら大学院で専門性のある学習ができるという大変魅力的な制度であると感じました。

これまで不動産業務の仕事において日々の業務に邁進してきたところ、これまで得た知識を体系的に整理し、そして自分の今後の業務においてより相応しい街づくりを自ら実践していけるように、まちづくりの基礎となる理論・知識、技術についてしっかりと総合的・体系的に整理し学ぶ必要を感じ、入学をいたしました。

新しく自分の今後の仕事・業務に役立てられるように、この大学院の恵まれた学習環境を活かし多くを学び吸収して行きたいと強く思います。

仕事の関係で現在は休学中ですが、まちづくり大学院の同期生から連絡を頂くなど暖かな学習の輪の中に入れていただき、とても感謝しています。

### ■桂 有生——横浜市役所

興味の赴くまま、気の向くままにやっていたら、結果、まちづくり大学院にたどり着いていました。東大の名前に臆する暇もなく。

僕らバブル以降の世代、それも崩壊直後に社会に出た世代は、前世代との比較で、自分には成功体験が圧倒的に足りてない、と思っています。それが僕らから強さを奪っている一方で、ヒトイチバイの探究心を抱かせているように考えると、個人的にはしっくりきます。僕らは僕らのやり方を見つけられる気がします。

おもしろいことに、と言ったら語弊があるかも知れませんが、僕らをとりまく環境も同時期に大きく変わろうとしています。ネガティブでなく、過剰にポジティブでもない、新しい世代の街のつくり方がここにはある!と、言い切れはしませんが、ここになくてどこにある?!という気概がまち大にはあります。その半分は僕らより上の世代、バブル体験の世代の方たちの熱気ではありますけれど。(笑)ぜひトライして下さい。

### ■勝部安彦——東京電力(株)

一言でいって面白い。都市計画のバックグラウンドのない私にとって、授業は濃密でキャッチアップには相当骨が折れますが、これまでと異次元の視座での議論は多くの示唆を含んでいます。

エネルギー事業に身を置いて 20 年近くになりますが、成熟都市・低炭素社会に向けての変革期にあって、将来ビジョンやロードマップはまだまだ腑に落ちるレベルまで明確になっておらず、試行錯誤の過程にあると思います。そんな中で、日常世界を離れた大学院という空間で、一步下がったビッグピクチャーでの思考を養い、低炭素都市のあるべき姿や、個人や会社が如何に「まちづくり」に貢献していくべきなのか、頭の整理には最良の機会です。

第一線の教授陣による講義はいずれも興味深く、社会的なプログラムが組込まれている等、この大学院の懐の深さを感じます。同級生や先輩も多彩なバックグラウンドと熱い思いを備えた魅力に富んだ方々で、日々良い刺激を得ています。

### ■加藤美栄——財団法人 運輸調査局

もともと、複数の分野を横断的に学習できるということで選んだ選考である一方、自分の知らない分野については授業についていけないのかといった不安もありましたが、教授・講師陣も実務に関わっていらっしゃる方が多いせいか、講義も分かりやすいものが多く、また社会人ならではの学生と教師陣の活発な質疑応答にも刺激を受けさせて頂いています。一緒に学んでいる同期も、他業種で全く異なる仕事をしている人も多く、同じ課題に取り組んでいても、違う視点や論点からアプローチしてくるなか、お互いの論点を突き合わせていくのは難しいこともありながら非常に面白いです。

しかも、年齢や職場のポジションに関係なく世代や業種を超えて議論できる機会というのは、仕事の中では得られない体験ということもあり、働きながら学ぶことは決して楽なことではありませんが、多才かつ多彩な同期のおかげで、日々ワクワクする大学生活を送らせて頂いています。

### ■稲葉真絵——横浜市役所

専門的な知識を総合的に身に付け、業務に生かしたいと思い、まちづくり大学院への入学を希望しました。

まちづくり大学院は、仕事を続けながら学習・研究できるため、大学院で学んだことをすぐに業務に直結させられるのではないかと考えました。

仕事を続けながらの学生生活は思った以上にきついです。同期生に刺激を受けながら大変充実した毎日を過ごしています。

### ■上村 康之——東海旅客鉄道(株)

私はこれまで鉄道会社において、単体の物件を扱う計画業務、言ってみれば「点」の計画に携わってきました。しかし鉄道は「線」であり、その影響は「面」の広がりを持ち得るものでもあります。そうした広範囲に及ぶ「面」的な影響を、まちづくりという観点からより深く理解することにより、例え「線」の計画でも、「点」の計画でも、より実効性の高いものになると思います。

まちづくりに関する最先端の知識とスキルを身につけることにより、駅と周辺地域のあるべき姿をイメージし、沿線都市の発展にも最大限寄与できるように、事業の方向性を正しく見極めていきたいと考えました。特に持続可能な環境都市づくりに関する最新の理論、知識、技法、技術を駆使することにより、沿線都市の今後のあるべき姿を「面的」に水平展開させていきたいと考え、まちづくり大学院への入学を決めました。

### ■齋藤 勇——渋谷区役所

私は職務として、今後進展していく渋谷駅周辺整備事業の様々な調整に携わっており、打ち合わせの連続で目の回るような日々が続き、仕事と学業の両立は相当ハードであろうと想像していました。

しかし、忙しさは想像どおりであるにもかかわらず、かなり充実した日々を過ごしています。新鮮で且つ時代の最先端を切り開く講義の連続、そして同期生とのコミュニケーション。こんなに学び語らう楽しい日々を入学前は想像していなかった、いや、想像以上だったと言うのが正しいかもしれません。

多様な専門分野をもつ同期生との討議や情報交換で得られるものは、普段の仕事で得られるものとはまるで違うものがあり、かなり大きな付加価値があります。

2010 年の流行語を意識してですが、齋藤は何か持っていると言われたら、それは(まちづくり大学院の)仲間ですと答えることになりそうです。



■演習での発表風景

## まちづくり大学院に入学して——2

## ■武田行弘——鶴ヶ島市役所

そもそも、どうしてこの大学院を知ったところからお話ししましょう。それは2007年6月の新聞記事でした。そこには、まちづくり大学院を開設するとありました。「まちづくり」に惹かれ、工学部に引っ掛かりながら、ホームページを確認しました。しかし、既に試験日の数日前でした。やれやれです。その後も工学部のページを確認していましたが、一向に新着情報はありません。さりとて積極的に問い合わせることもしませんでした。

それが何の巡り合わせでしょう。今年の4月、ふと思い立ち「まちづくり大学院」と検索したところ、なんと独自のページに行き着いたのです。3年間も見ているページが違いました。やれやれです。しかし、今度は入試説明会の数日前でした。これも縁かと説明会に参加し、これも縁だと受験しました。

続きは、またお会いしてからにしましょう。とにかく、皆さん同様、「まちづくり」に導かれたということ。

## ■趙 美香——韓国 国土地理院

まちづくり大学院に進学したことは、多様な分野の人たちとの出会いによって、様々な現象に対してこれまでとは異なる側面の考え方を学ぶ契機になりました。

ワークショップ形式の授業やディスカッションによる授業が面白くて新鮮でした。また、講義なさる先生方が複雑なお話をするために努力する情熱的な姿にも感動しました。

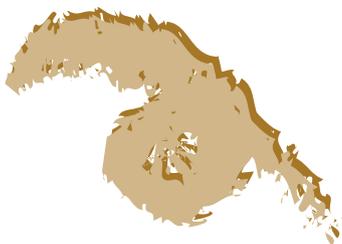
でも、経験不足な私は、辞書に出てこない単語や表現などがよく分からなくて授業を理解することが難しく、大変でした。

そんな時、一緒に勉強している同期生が力になってくれました。知らないことを尋ねると知っている人が説明してくれますし、授業以外のことも語り合っただけで楽しい大学院生活を送っています。

大学院に進学した後に得た一番貴重なものは、一緒に勉強して苦労している4期生の同期生たちです。私は学校生活だけでも大変でしたが、仕事と勉強を両立している同期生は本当に立派で、尊敬しています。

始めの学期が一番大変な学期だと言います。同期生みんなと一緒に苦しい時間を耐えることができます。

これからも同期生と一緒に笑ったり勉強したりしながら、卒業を目指して、一生懸命、学校での生活を充実させて行きたいと考えています。



## ■辻 麻里子——環境問題翻訳チーム・ガイア

入学して数カ月。市民という立場で「まちづくり」には関わってきたものの、理論やハード面は全くの素人。知らないことの多さに愕然とする日々。でも大学構内の銀杏並木が金色の葉を落とす頃、まちを歩きながら、ふと、見方がすっかり変わっている自分を発見。

土地の高低、建物の形状、歩道の幅、下水溝までが目に入ってくる。心地よい風が吹けば、風の道と建物の配置を思う。知識のあるなしで、まちの見え方はこんなにも違う。とすれば、これまで考えていた「まちづくり」にも、見えていなかったものがたくさんあるはず。

最先端の研究や実践を、その分野の第一人者の先生方から深く多面的に学び、そうした仕事に取り組むクラスメイトから現場の話や聞きなかに、今後まちがどう見えてくるのか。ハードもソフトも包含したどんな「まちづくり」の姿があらわれるのか。

目前のレポートの締切が気になりながらも、この先が楽しみでならない毎日です。

## ■坪井 務——(株)日立製作所

大手日本の半導体会社において特に情報通信系の製品企画および研究を進める中、半導体業界で言われているシステムソリューション（SoC：System on Chip）へのニーズの高まりが大きくなっていく場面に遭遇するケースが多くなった。半導体はサブミクロンの世界を行く反面、様々な分野に必要とされない部品となっており、その製品の機能、性能を左右する役割を担っている。

システムに対する捉え方は、一般には製品をまとめるシステムメーカーからの仕様に基づいて、製品設計を進めるのが業務のやり方になる。情報通信分野においては、システムメーカーとの連携ないし、その仕様面での議論も多い反面、そのシステムをよく把握しなければ、新製品開発に繋がらないケースが多く、システム仕様を決めるためには、元々の要求にまでさかのぼって理解する必要がある、どのような環境（広い意味でのまちづくり）からその要求が来るのかの理解が必要と判断し、志望に至った。

## ■野末 遥——(株)アキュラホーム

世界が広がった、というのが私の率直な感想です。高齢社会や少子化、地域格差、国際化など、まちの在り方への危機感から大学院入学を決意した私ですが、今や授業を受けるたび、また他業界のクラスメイトの意見を伺う度「そんなこともできるのか！」「そういう方法があるのか！」と衝撃を受け、また「こう組み合わせたらもっと効果的なのでは」と、総合的なまちづくりにおける業界コラボレーションの可能性に心を躍らせています。これも「まちづくり」に興味のある、そして分野が違う多数の実務経験者が集合することで初めてできたこと。そのような機会はなかなかあるものではありません。体力的に辛いときもありますが、素晴らしいクラスメイト（最年少の私が生意気にいろいろ意見を言っても温かく受け入れてくれます！）にも恵まれ、毎日わくわくしながら通っています。

### ■星合善文——建築コンサルタント

組織設計事務所に勤務し、国内の交通施設や病院の建築設計にあたったのち、ODAの海外プロジェクトにかかわるようになった。東南アジアや南太平洋の途上国の医療、保健、教育の改善に建築設計を通してかわりながら、住や生活の質をめぐる問題は都市問題を抜きにして解決できないことを実感してきた。都市の衛生や温暖化の問題は建築単体では解決できない。途上国はそもそもコミュニティ形成にも課題を抱えている。そんな漠然とした意識をもっていたある日「東大まちづくり大学院」の募集ポスターをみつけた。時代はかつて学んだはずのトップダウン型の「都市計画」の時代から住民参加型の「まちづくり」の時代へと変遷していることを知り衝撃をうけた。振り返れば、世界は国境を越えて低炭素化への取り組みに歩みだしている。足元をみれば、日本は世界でも先例のない少子高齢化社会を迎えようとしている。「いま学ばなくてはいけない」そう確信したのが私の志望の動機である。

### ■矢内 諒——清水建設(株)

まちづくり大学院で学びはじめて感じることは、この大学院での授業は無駄を排したエッセンスを抽出した授業を受けることが出来るということである。幅広く実務の第一線で活躍している行政、民間、NPOなどの講師陣の講義が行われ、様々な立場や経験から話される話はどれも興味深く引き込まれるものばかりである。さらに、様々なまちづくりの分野の最前線で活躍している学生達との議論により内容をより深く理解することができる。

しかしながら、納得がいくまで議論は終わらないため、授業が延長するのは日常茶飯事であり、とても昼間に働いている人たちとは思えないエネルギーが教室に溢れており、毎日圧倒されてばかりである。この充実した環境の中で学べていることは非常に幸せなことであり、2年という短い時間ではあるが、一つでも多くを学び、自分の業務の中で社会に還元していきたいと考えている。

### ■若松久男——建築事務所主宰

「新たに学ぶ」

建築・環境・都市・自然・デザイン等を取り巻く世界の動向が大きな勢いで変わっていく。そうした世界の動きを改めて学びたいという気持ちから門をたたくこととなりました。

内容の幅広さと現代社会が抱えている都市・建築・環境・自然など様々な問題を正面からとらえ、また世界の最先端の動向を学べる良い機会になると期待しております。また数年前から、小さな雑誌で連載をいただく機会に恵まれましたが、そこで建築・都市・アートなどをテーマに書くにつれて、痛切に感じたのは、自分はいかに知らないできたかという反省でした。早い話が環境用語一つにしても正確に把握できていない。その反省からも、姿勢を正して、改めて学んでいきたいという気持ちが湧き上がって来た次第です。

### ■渡邊秀樹——(有)リノベイトダブリュ NPO みらい平ひとまちネット

まちづくり大学院は極めてリアルなフィールドだと感じています。授業内容は即時性を伴う高度な情報の集積であり、現場での実証や経験を伴って語られる内容が多く、都市についての先端的な潮流を体感することができます。特に、先生たちが授業の中や演習の講評において醸し出す価値判断の表明には、まちづくり大学院というリアルなフィールドに自分がいないと触れることができません。単なる知識であれば、書籍やインターネットによって相当得られる世の中になっていると思うのですが、まちづくり大学院で体感できる内容はバーチャルな世界ではなく、専門分野に秀でた、生きている人たちが介在するフィールドであるからこそ発生していると感じるのです。学友たちも必ず何かの分野で抜きん出た実力を持っているので、授業と学友たちからの刺激を毎日シャワーのように浴びて、自分の中で都市やまちづくりのとらえ方が早くも変化してきていることを感じ、驚いています。

### ■渡辺雅博——不動産事業会社

不動産事業会社に勤める中で、私は都市計画や「まちづくり」といった分野に強い興味を持つようになりました。しかし、文系学部出身の自分にとって「都市工学」を学ぶことは憧れのままで終わるのだろうと寂しく考えておりました。そんな折、この「まち大」の存在を知り、憧れを具体的な形にできるチャンスはこの場において他には無いと思い、一念発起して飛び込みました。

「都市工学」への好奇心に端を発して、大きなお金の流れに翻弄されがちな「まちづくり」の持続可能性の高いこれからの在り方や、東京への人・モノ・カネの一極集中と地方都市の衰退が進む社会の中で求められる、東京と地方との理想的な関係性の構築について、私なりに考えをまとめていくことが学生生活の課題です。

学生という新鮮な身分を活かし、素晴らしい先生の皆様方の支援や、熱気と刺激に満ちた同期との語らいを通じて、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



■演習のようす

## イベント情報

### ■東大まちづくり大学院 イブニングセミナー

会場：東京大学工学部 14号館141講義室（本郷キャンパス）

今回で4回目になるイブニング・セミナーは、エリアマネジメント、人口減少時代の都市計画、日本橋再生というホットなテーマについて、最新の取り組みや動向について、その最前線でご活躍の皆様にご講義をお願いし、参加者との討論によりテーマを掘り下げます。なお、寄付講座の協力を得て、参加費は無料とさせていただきます。

第1回：3月 7日（月） 18：30～20：30

#### 「街を育てる 二つのエリアマネジメント」

—「つくること」&「育てること」を一体的に取り組む新しいまち育て—

小林重敬 氏（東京都市大学教授・横浜国立大学特任教授（Y-GSA 担当））



第2回：3月15日（火） 18：30～20：30

#### 「人口減少時代の都市計画—まちづくりの制度と戦略—」



大西 隆 氏  
（東京大学教授）



遠藤 薫 氏  
（東京大学先端科学技術研究センター教授）



松本 昭 氏  
（(株)市民未来まちづくりテラス）

第3回：3月22日（火） 18：30～20：30

#### 「世界の都市間競争と日本橋再生計画」

中川俊広 氏（三井不動産(株)日本橋街づくり推進部長）



会場：東京大学工学部14号館141号室（本郷キャンパス）

主催：東大まちづくり大学院

定員：各回100名 参加費：無料（事前申込制）

#### 申し込み方法

お名前・ふりがな・所属・連絡先・参加希望回（多くの方に参加していただくために、複数回参加ご希望の場合は、優先順位をつけてください）を明記の上、下記までメールでお申し込みください。

[seminar@urban.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:seminar@urban.t.u-tokyo.ac.jp)

ご質問などもメールでお願いします。

## 2011年 東大まちづくり大学院入試情報

2011年度の入学試験を右記のように行います。募集要項の取り寄せ方法など詳しくは、東大まちづくり大学院のホームページをご覧ください。

募集要項・入学志望者案内 配布開始 4月1日（金）～

説明会：4月18日（月）18:30～ 本郷キャンパス工学部14号館141講義室

出願：5月17日（火）～27日（金）

入学試験：6月25日（土）

入学：10月1日（土）

URL：<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>